

CLUSTERPRO[®] X *for Windows*

PPガイド (Veritas NetBackup Client)

2018.02.27
第3版

CLUSTERPRO

改版履歴

版数	改版日付	内容
1	2012/08/10	PPガイド(バックアップツール)より分冊し、新規作成
2	2016/02/15	動作環境の更新(NetBackup製品ページへのリンク化)
3	2018/02/27	・適用範囲の更新 ・制限事項(Oracleリストア時の設定)に詳細手順を追加

© Copyright NEC Corporation 2015-2018. All rights reserved.

免責事項

本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいしません。

また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。

本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

商標情報

CLUSTERPRO® X は日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Veritas、Veritasロゴ は、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

目次

はじめに.....	i
対象読者と目的.....	i
適用範囲.....	i
CLUSTERPRO マニュアル体系.....	ii
本書の表記規則.....	iii
最新情報の入手先.....	iv
第 1 章 Veritas NetBackup.....	1
機能概要.....	1
機能範囲.....	2
動作環境.....	2
インストール手順.....	2
注意事項.....	2
制限事項.....	5

はじめに

対象読者と目的

『CLUSTERPRO® PPガイド』は、クラスタシステムに関して、システムを構築する管理者、およびユーザサポートを行うシステムエンジニア、保守員を対象にしています。

本書では、CLUSTERPRO環境下での動作確認が取れたソフトウェアをご紹介します。ここで紹介するソフトウェアや設定例は、あくまで参考情報としてご提供するものであり、各ソフトウェアの動作保証をするものではありません。

適用範囲

本書は、以下の製品を対象としています。

CLUSTERPRO X 3.3 for Windows

CLUSTERPRO X 3.2 for Windows

CLUSTERPRO マニュアル体系

CLUSTERPRO のマニュアルは、以下の 4 つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X スタートアップガイド』(Getting Started Guide)

CLUSTERPRO を使用するユーザを対象読者とし、製品概要、動作環境、アップデート情報、既知の問題などについて記載します。

『CLUSTERPRO X インストール & 設定ガイド』(Install and Configuration Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタ システムの導入を行うシステム エンジニアと、クラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO を使用したクラスタ システム導入から運用開始前までに必須の事項について説明します。実際にクラスタ システムを導入する際の順番に則して、CLUSTERPRO を使用したクラスタ システムの設計方法、CLUSTERPRO のインストールと設定手順、設定後の確認、運用開始前の評価方法について説明します。

『CLUSTERPRO X リファレンス ガイド』(Reference Guide)

管理者、およびCLUSTERPRO を使用したクラスタ システムの導入を行うシステム エンジニアを対象とし、CLUSTERPRO の運用手順、各モジュールの機能説明、メンテナンス関連情報およびトラブルシューティング情報等を記載します。『インストール & 設定ガイド』を補完する役割を持ちます。

『CLUSTERPRO X 統合WebManager 管理者ガイド』(Integrated WebManager Administrator's Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムを CLUSTERPRO 統合WebManager で管理するシステム管理者、および統合WebManager の導入を行うシステムエンジニアを対象読者とし、統合WebManager を使用したクラスタシステム導入時に必須の事項について、実際の手順に則して詳細を説明します。

本書の表記規則

本書では、「注」および「重要」を以下のように表記します。

注: は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

重要: は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

関連情報: は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角かっこ	コマンド名の前後 画面に表示される語 (ダイアログ ボックス、メニューなど) の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックス
コマンドライン中の [] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能であることを示します。	<code>clpstat -s[-h host_name]</code>
モノスペースフォント (courier)	コマンド ライン、関数、パラメータ	<code>clpstat -s</code>
モノスペースフォント太字 (courier)	ユーザが実際にコマンドプロンプトから入力する値を示します。	以下を入力します。 <code>clpcl -s -a</code>
モノスペースフォント斜体 (courier)	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	<code>clpstat -s [-h host_name]</code>

最新情報の入手先

最新の製品情報については、以下のWebサイトを参照してください。

<https://jpn.nec.com/clusterpro/>

第 1 章 Veritas NetBackup

機能概要

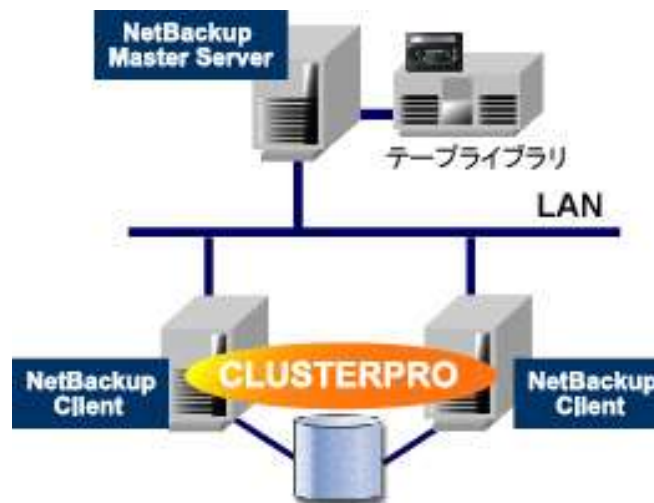
Veritas NetBackup の運用は、クラスタ構成のマシンとは別にバックアップ用のマシン(以降バックアップサーバと呼ぶ)を用意し、現用系/待機系それぞれのバックアップをバックアップサーバが制御する形態となります。

バックアップのシステム構成は以下の通りです。

バックアップサーバを用意し、バックアップサーバで指定した対象ストレージ(テープ装置またはディスク)にクラスタシステムのデータをバックアップします。

バックアップサーバには NetBackup Server ソフトをインストールします。クラスタシステム構成のマシンは NetBackup クライアントとなり、各マシンには NetBackup Client ソフトをインストールします。

下図のようなシステム構成になります。



機能範囲

Veritas NetBackup は、クラスタ構成のサーバとは独立した別のバックアップサーバでの運用となるため、機能上の制限はありません。

動作環境

Veritas NetBackup は、以下の環境で動作します。

サーバ : Windows, Solaris, Linux

クライアント : Windows, Solaris, Linux

詳細な情報については、以下の Web サイトを参照してください。

http://jpn.nec.com/backup/netbackup/netbackup_require.html

インストール手順

「機能概要」で示したように Veritas NetBackup のインストールは、バックアップサーバに Master Server として行います。クラスタ構成の二つのサーバには、NetBackup Client のインストールを行います。クライアントのインストールの際に指定するホスト名は、ローカルのホスト名を使用します。(仮想ホスト名ではありません。)

これらのインストールは、通常のインストールと同様です。

注意事項

NetBackup では NetBackup サーバ、クライアント間で正常に通信を行うために双方でホスト名、IP アドレスの正引き、逆引き両方が行える必要があります。この操作が確実に実行されるように Host ファイルへの記述もしくはネームサーバ(DNS)等の設定を実施して下さい。

クラスタシステムで使用する仮想ホスト名、仮想 IP アドレスも同様に設定が必要です。

Veritas NetBackup のバックアップ設定

クラスタシステム構成でのバックアップ対象データが格納されているディスク構成は以下の 4 つが考えられ、それぞれバックアップ対象とする場合の NetBackup の設定ポイントを解説します。

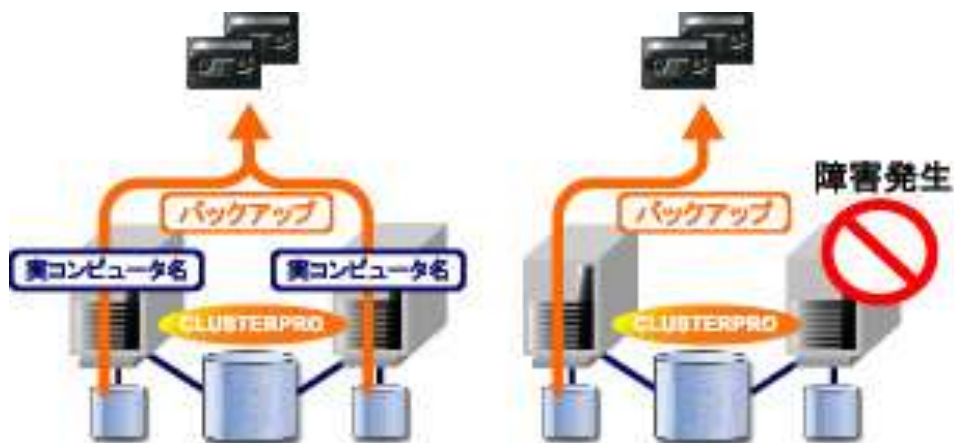
- ローカルディスク
- 共有ディスクシステム(双方向スタンバイクラスタ)
- 共有ディスクシステム(片方向スタンバイクラスタ)
- ミラーディスクシステム

※ クラスタシステムを構成するマシン数が2台のケースについて説明しています。

(1) ローカルディスク

バックアップ対象のマシン名には「実コンピュータ名」を使用し、各マシンのローカルディスク上のデータをバックアップします。

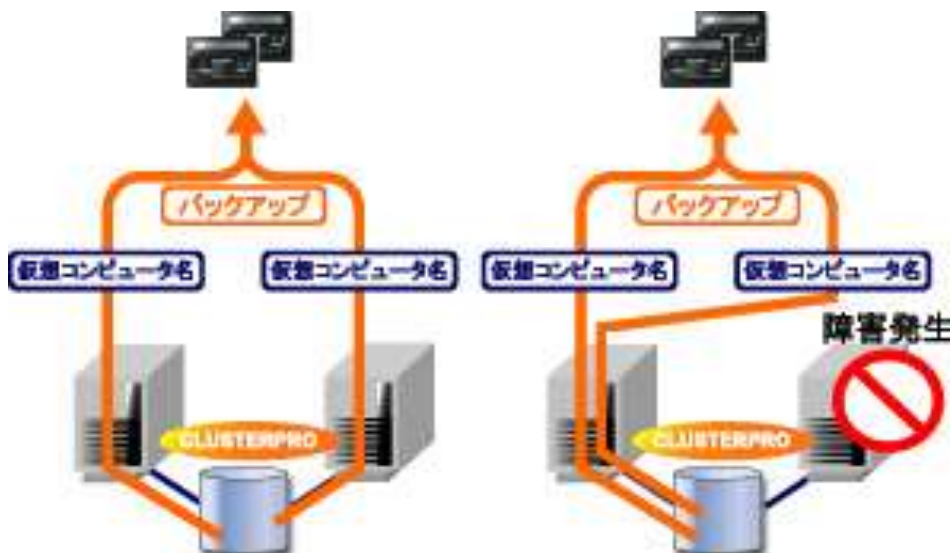
障害発生マシンのローカルディスクは、復旧するまでの間、バックアップを行うことが出来ません。



(2) 共有ディスクシステム(双方向スタンバイクラスタ)

バックアップ対象のマシン名には「仮想コンピュータ名」を使用し、共有ディスク上のデータをバックアップします。

障害発生時、共有ディスク上のデータの読み出しが、片系のみとなるため、サーバのバスや SCSI にて性能ネックとなり、バックアップ時間が増加する可能性があります。



(3) 共有ディスクシステム(片方向スタンバイクラスタ)

バックアップ対象のマシン名には「仮想コンピュータ名」を使用し、共有ディスク上のデータをバックアップします。

障害発生時、フェイルオーバーによるバックアップ性能の劣化はありません。



(4) ミラーディスクシステム

バックアップ対象のマシン名には「仮想コンピュータ名」を使用し、ディスク上のデータをバックアップします。障害発生時、フェイルオーバーによるバックアップ性能の劣化はありません。

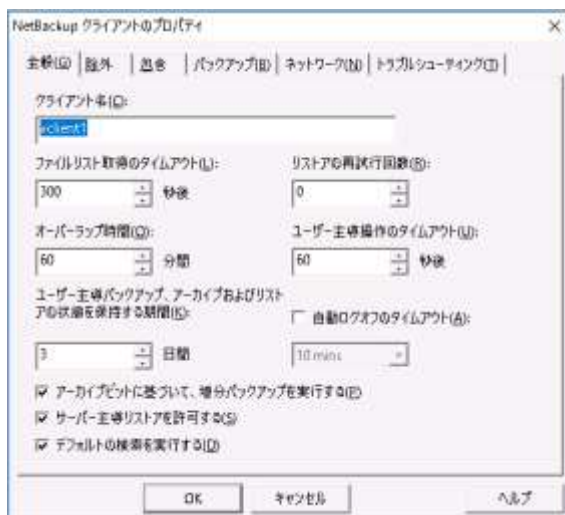


制限事項

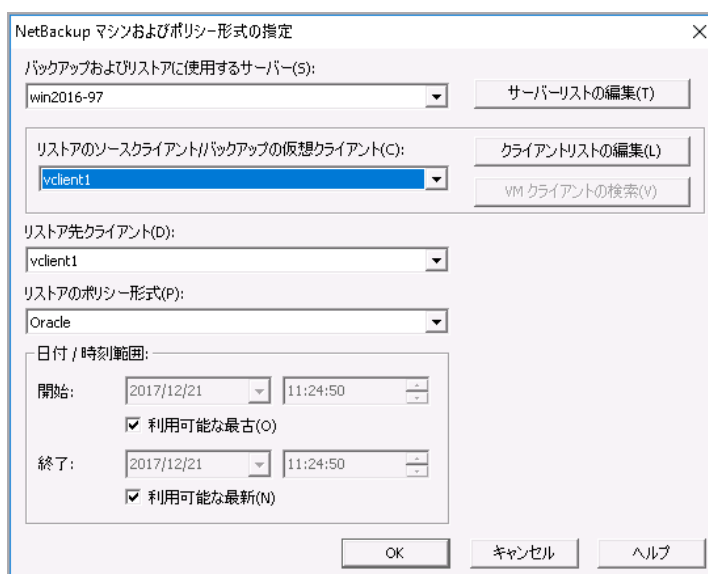
- (1) システム復旧後、切替パーティションの設定で問題がある場合は再設定を行ってください。システムの復旧では、切替パーティションのドライブ文字、GUID が復元されません。設定方法の詳細は CLUSTERPRO のドキュメント (CLUSTERPRO リファレンスガイド 第 10 章 保守情報) を参照してください。
- (2) Oracle のリストアにおいて仮想ホスト名を使用している場合、対象ホストおよびマスタサーバで以下の設定を行った後、リストアを行う必要があります。
対象ホストの設定は現用系/待機系の両方で行います。
リストア後は、元の実ホスト名に変更する必要があります。

● 対象ホストの設定

- i. 対象ホストにて「Backup, Archive, and Restore」インタフェースを起動します。
- ii. ファイルメニューから「ファイル」-「NetBackup クライアントのプロパティ」を選択します。
- iii. 「全般」タブのクライアント名に仮想ホスト名を入力し、「OK」ボタンを押下します。



- iv. ファイルメニューから「ファイル」-「NetBackupマシンおよびポリシー形式の指定」を選択します。
 - v. 「クライアントリストの編集」ボタンを押下します。
 - vi. 「リストに追加する名前を入力」欄に仮想ホスト名を入力し、「名前の追加」ボタンを押下し、「OK」ボタンを押下します。
 - vii. 「リストアのソースクライアント/バックアップの仮想クライアント」のプルダウンから仮想ホストを選択し、「OK」ボタンを押下します。
- ※リストア後は同様の手順で実ホスト名に戻してください。



● マスタサーバの設定

- i. マスタサーバの NetBackup インストールフォルダ配下に altnames フォルダを作成します。

<install_path>%NetBackup%db%altnames

- ii. altnames フォルダ配下に実ホスト名を名前とした空ファイルを作成します。
例)現用系の実ホスト名が client1、待機系の実ホスト名が client2 の場合
 <install_path>%NetBackup%db%altnames%client1
 <install_path>%NetBackup%db%altnames%client2
- iii. NotePad で client1 ファイルおよび client1 ファイルを開き、仮想ホスト名を記入して保存します。
- iv. 以下のコマンドを順に実行し、NetBackup を再起動します。
 <install_path>%NetBackup%bin%bpdwn
 <install_path>%NetBackup%bin%bpup
- v. NetBackup 管理コンソール(GUI)を起動します。
- vi. 「NetBackup の管理」-「ホストプロパティ」-「クライアント」を選択します。
- vii. クライアント一覧で仮想ホストをダブルクリックします。
- viii. 「プロパティ」-「クライアント名」を選択し、クライアント名の入力欄に仮想ホスト名を入力して「OK」ボタンを押下します。
 ※リストア後は同様の手順で実ホスト名に戻してください。

